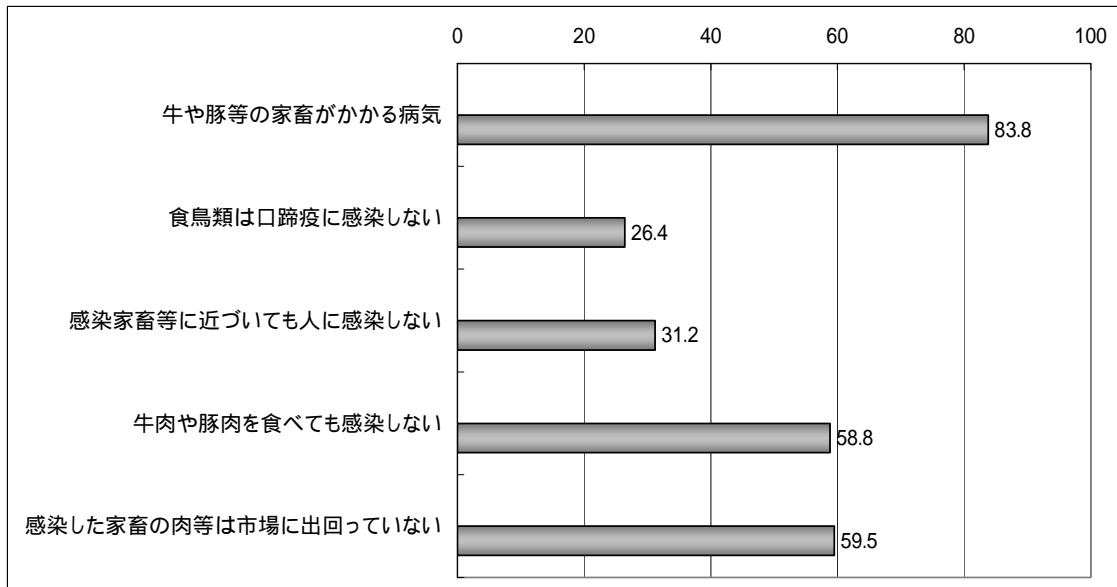


第 章 口蹄疫の分析

1 口蹄疫についての理解度

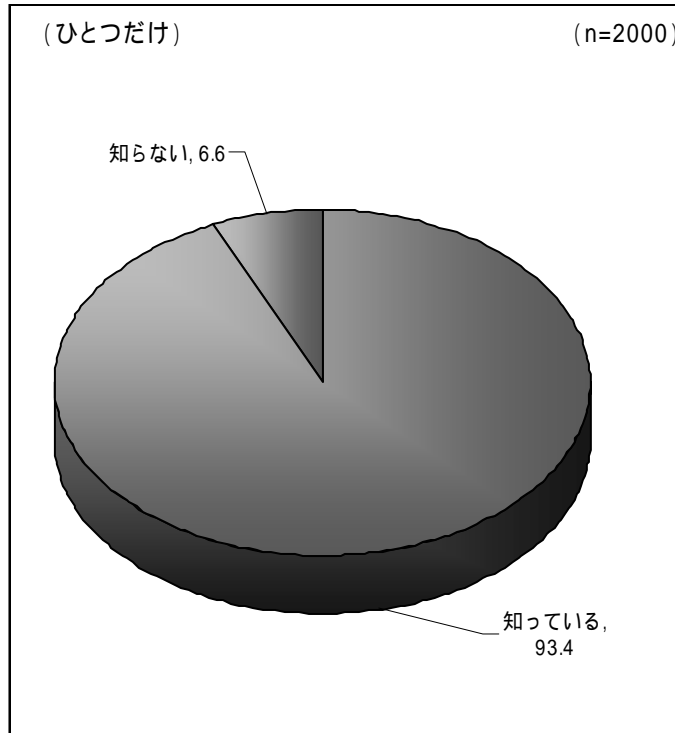
図表 -1 口蹄疫について知っていること (単位: %)



平成22年の春から夏にかけて、宮崎県南部を中心に広まった口蹄疫について、その伝染病としての理解度を尋ねたところ、「牛や豚等の家畜がかかる病気」であると知っている人が83.8%と最も多い。次いで「感染した家畜の肉等は市場に出回っていない」が59.5%、「牛肉や豚肉を食べても感染しない」が58.8%。「感染家畜等に近づいても人に感染しない」は31.2%、「食鳥類は口蹄疫に感染しない」は26.4%である。

2 口蹄疫終息宣言についての認知度

図表 -2 口蹄疫終息宣言の認知度 (単位: %)

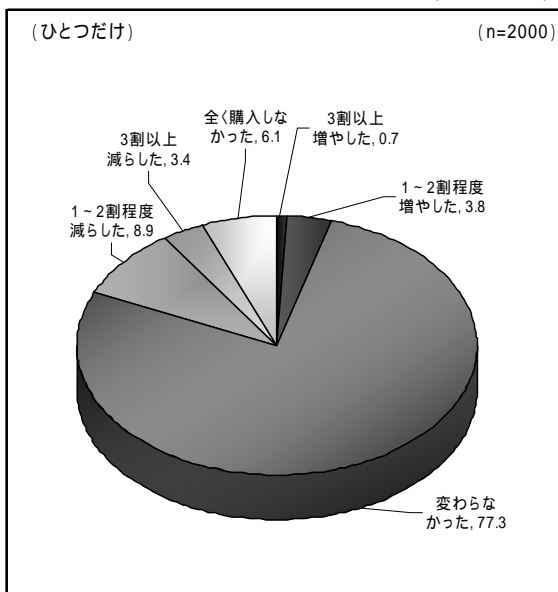


平成22年8月末に宮崎県が口蹄疫の終息宣言をしたことについての認知度をみると、「知っている」が93.4%である。9割以上の消費者が宮崎県の口蹄疫の終息宣言を認知している。

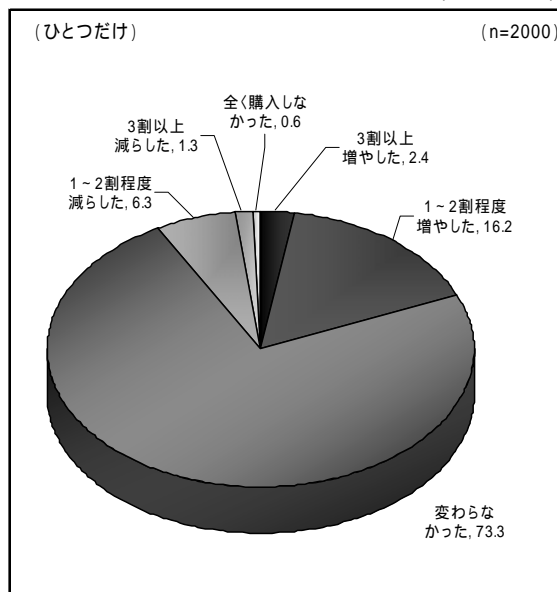
3 口蹄疫発生時と終息宣言後での食肉の購入状況の変化

1. 牛肉・豚肉の購入状況の変化

図表 - 3 口蹄疫発生時と終息宣言後での牛肉購入状況の変化
(単位: %)



図表 - 4 口蹄疫発生時と終息宣言後での豚肉購入状況の変化
(単位: %)



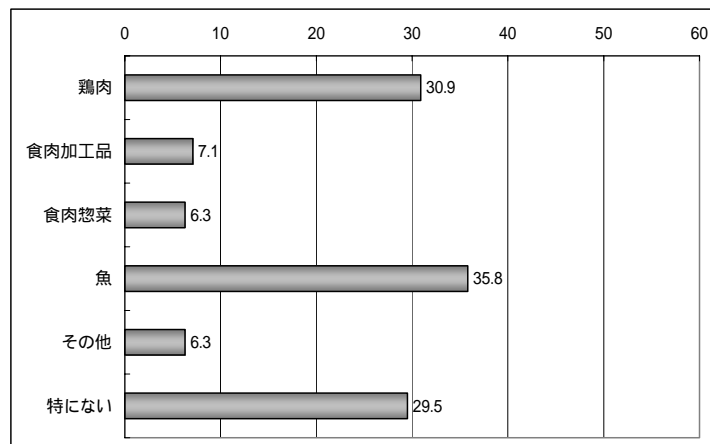
平成22年8月末に宮崎県が口蹄疫の終息宣言をした後での購入状況の変化をみると、牛肉では、もともと買っていない人も含めて「変わらなかった」は77.3%とおよそ8割を占める。「全く購入しなかった」は6.1%である。減らした割合は「1~2割程度減らした」が最も多く8.9%、「3割以上減らした」が3.4%である。反対に、増やした割合は「1~2割程度増やした」が3.8%、「3割以上増やした」が0.7%である。

豚肉では、もともと買っていない人も含めて「変わらなかった」が73.3%と7割強を占める。「全く購入しなかった」は0.6%である。減らした割合は「1~2割程度減らした」が最も多く6.3%。反対に、増やした割合は「1~2割程度増やした」が16.2%、「3割以上増やした」が2.4%である。

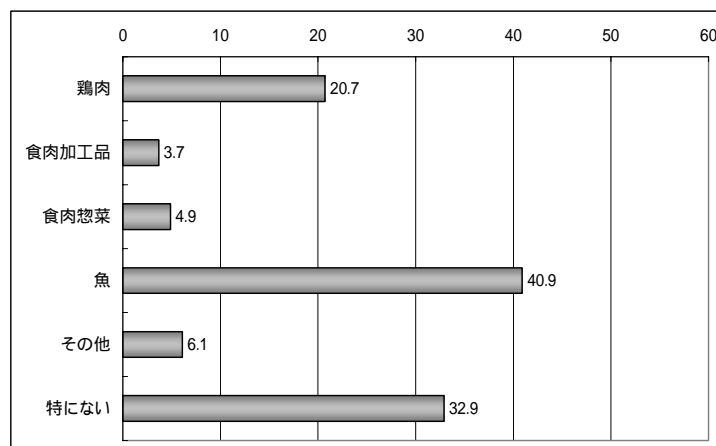
3 口蹄疫終息宣言後の食肉の購入状況の変化

2. 牛肉・豚肉の代わりに購入を増やした食品

図表 - 5 牛肉の代わりに購入を増やしたもの (単位: %)



図表 - 6 豚肉の代わりに購入を増やしたもの (単位: %)



平成22年8月末に宮崎県が口蹄疫の終息宣言をした後での購入状況の変化をみると、牛肉では、代わりに購入を増やした食品で最も多いのは「魚」の35.8%。「鶏肉」が30.9%で続く。「特になし」は29.5%である。

豚肉では、代わりに購入を増やした食品で最も多いのは「魚」の40.9%。「鶏肉」が20.7%で続く。「特になし」は32.9%である。